

二年生 国語

文法④

～一年生の復習～

準備するもの

- 文法ノート（学校で使っているテキスト）
- ワーク（一年生で使ったもの）
- ノート（できれば文法用と授業用分けたほうがあとで見やすいですが一緒でもいいです。）

文法④

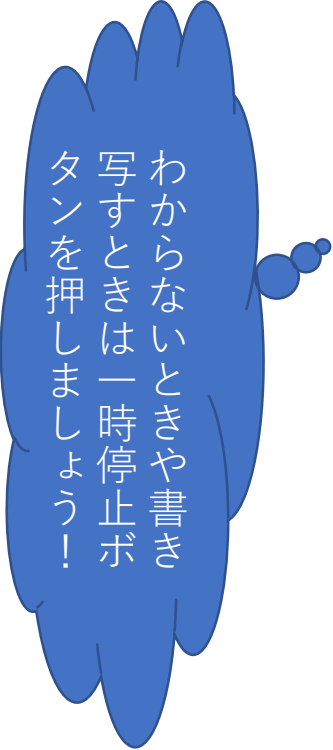
～一年生の復習～

文法については、三年間かけて学習していきますので、積み重ねが大切です。

練習問題をたくさん解きながら、理解していってください。

では、学習をはじめていきます。

最後のページにノート用のスライドがあるので、ノートに書き写しましょう。今回は復習ですので、一度授業で書いていると思いますが、もう一度書きましょう。



わからないときや書き写すときは一時停止ボタンを押しましょう！

文法 一年生の復習

★単語の種類

品詞分類

品詞を十種類

答えてください。

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (| (| (| (| | |
| ⑨ | ⑦ | ④ | ① | | |
|) |) |) |) | | |
| (| (| (| (| | |
| ⑩ | ⑧ | ⑤ | ② | | |
|) |) |) |) | (| (|
| | | | | ⑥ | ③ |
| | | | |) |) |

覚えていますか？

品詞とは・文法上の働きなどにより単語を次の十種類に分類したものです。

(動詞)	(形容詞)	(形容動詞)
(名詞)	(連体詞)	(副詞)
(助詞)	(助動詞)	(接続詞)
		(感動詞)

主に次の三つのポイントで分類していきます。

- ①、自立語か付属語か。
- ②、活用するか、しないか。
- ③、どのような文の成分になるか。

そうです。①・③については、今までの学習で確認してきたことです。

文法学習は、学んだことが後につながっていくので、その都度しっかりと理解していくことが大切です。

では、復習しながら確認していきます。

まずは、①の自立語・付属語からです。

「僕は妹に漢字の書き方を教える。」

この文を、自立語と付属語に分けてください。

まずは文節に分けてみて！

といっても、いきなり自立語・付属語に分けようとする、間違えてしまうことがあります。

横着せずに、必ず文節に分けるところからやってみましょう。

僕は／妹に／漢字の／書き方を／教える。

これは、もう大丈夫ですね。では、
単語に分けましょう。同時に自立語、
付属語に分類してみましょう。

僕は／妹に／漢字の／書き方を／教える。

○僕
○は
○妹
○に
○漢字
○の
○書き方
○を
○教える。

確認

○自立語・・・それだけではっきりとした意味があり、
単独で文節が作れる単語のこと。

☆一つの文節に必ず一つ！

★必ず文節の先頭に来る！

○付属語・・・それだけで意味がはっきりせず、
単独で文節が作れない単語のこと。

☆一つの文節に含まれない場合も複数ある
場合もある！

★必ず自立語の後につく！

単語は、必ず自立語か付属語のどちらかに分類されます。



ここまでのイメージ

次は、②活用するか、しないかです。

活用とは・・・下に続く言葉によって、単語の形が変化することをいいます。

例えば・・・

「遊ぶ」という単語を見てみましょう。

「遊ぶ」

遊遊遊遊遊遊
○○○○○○

う！ば。ま ない
す い
(命令)

下に続く言葉

○に当てはまる文字
を入れてみよう

こうなりますね！

遊遊遊遊遊遊
ぼべべぶびば

う！ば。ま ない
す い
(命令)

このような語形の変化を活用といいます。

活用するか、しないかは下に「ない」や「ば」をつけて確認してみましょう。

例文に戻ります。

僕 は 妹 に 漢字 の 書き方 を 教える。

活用する自立語を探してみてください。

「教える」だということがわかりますか？

「ない」をつけると「教え」ない
「ば」をつけると「教えれ」ば

青丸から探そう！

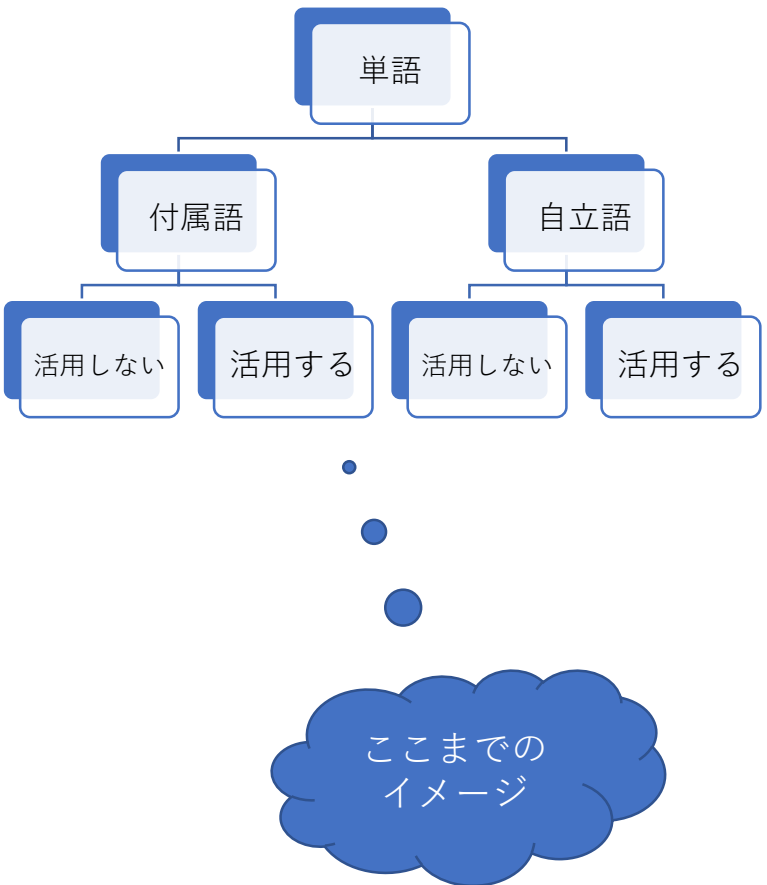
このように変化しているので、「教える」は活用する自立語であることがわかります。

僕 は 妹 に 漢字 の 書き方 を 教える。

他の単語はどうでしょうか？

「ない」や「ば」をつけても形は変わりませんか？
ということは、「教える」以外は、活用しない単語
であることがわかります。

自立語も付属語もそれぞれ、「活用する」単語と
「活用しない」単語に分かれます。



続いて③文の成分によって、単語はさらに
分類され、最終的に十種類の品詞に分けられます。

ここまでは理解できましたでしょうか。

自立語・付属語がうまく分けられない・・・
活用がよくわからない・・・
という人は、あわてずにテキストやワークの
練習問題をやってみましょう。

それでは、
③の文の成分による分類などを見ながら、品詞に分けていきましょう。

まずは、活用する自立語です。

活用する自立語はそれだけで**述語**になることができ、
動詞・形容詞・形容動詞の三つの品詞に分類されます。
この三つの品詞をまとめて、**用言**といいます。

「動詞・形容詞・形容動詞の分類」

動詞・・・言い切りの形が、「ウ段」の音で終わる。

(例) 走る 食べる 投げる 笑う 話す

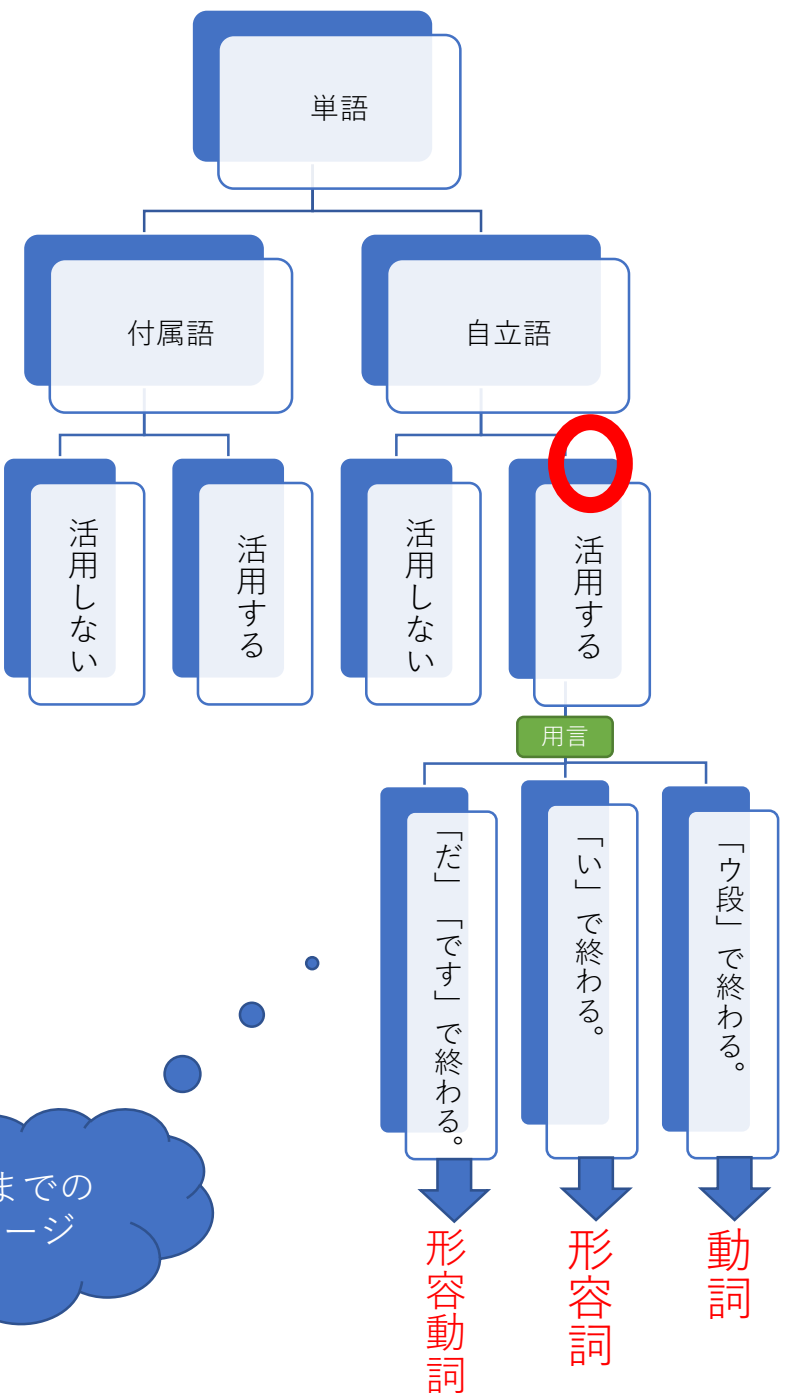
形容詞・・・言い切りの形が、「い」で終わる。

(例) 寒い 暑い 白い 楽しい 重い

形容動詞・・・言い切りの形が、「だ」「です」で終わる。

(例) 静かだ(です) 元気だ きれいだ 立派だ

「修飾語」
のところで
できました
だね!



ここまでの
イメージ

次に、活用しない自立語です。

活用しない自立語は全部で五種類の品詞があります。

五つの品詞の中で、「が」をともなつて主語になることができる単語を体言といいます。体言は名詞のみです。

名詞・・・事柄や物事の名前を表わす。体言になる。

(例) りんご 雨 野球 竹取物語 学校 日本

連体詞・・・修飾語になる。体言だけを修飾する。

(例) 大きな この ある

副詞・・・修飾語になる。主に用言を修飾する。

(例) とても すぐに そつと ゆっくり

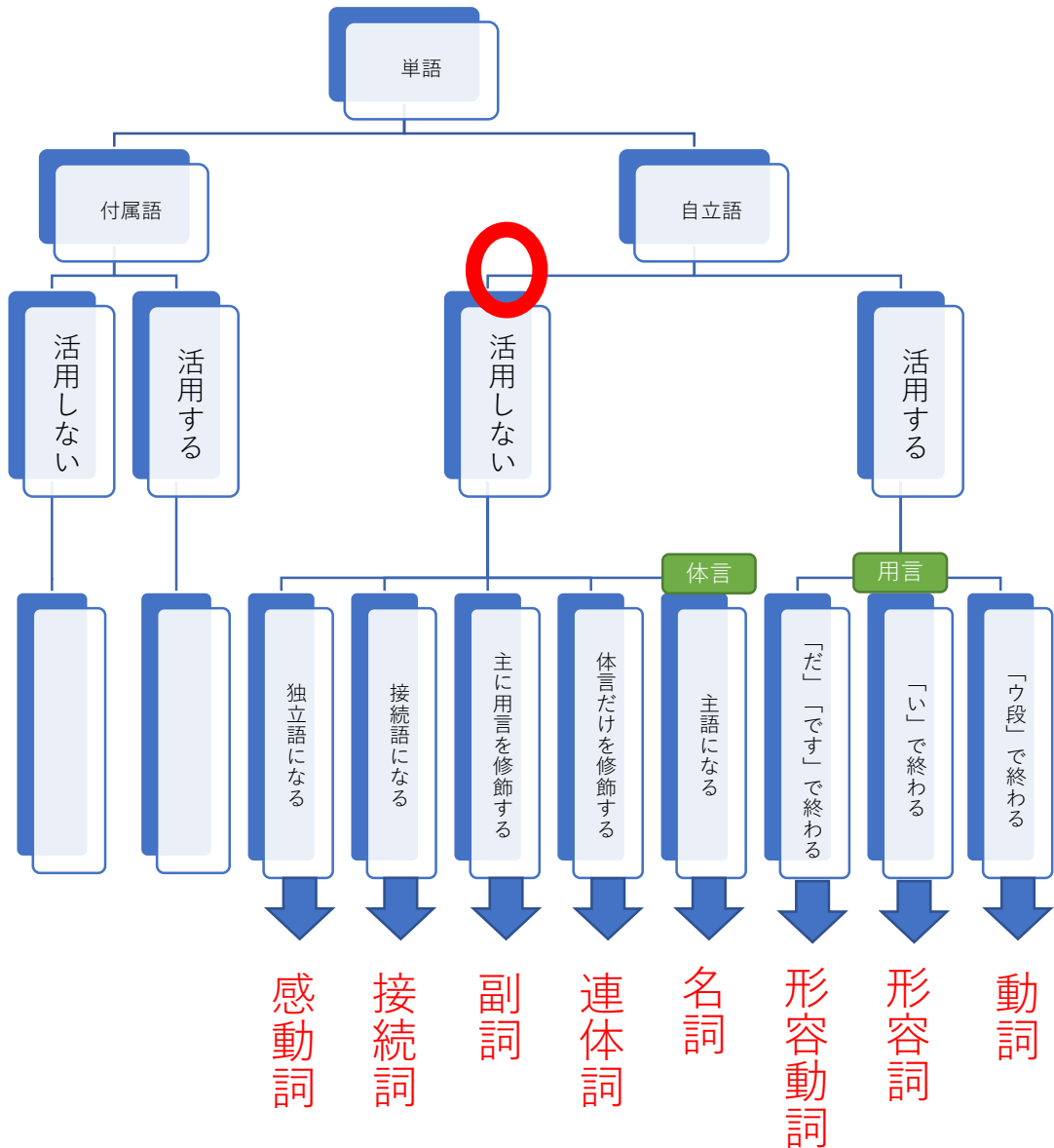
接続詞・・・接続語になる。

(例) しかし だから でも つまり また

感動詞・・・独立語になる。

(例) まあ はい いいえ もしもし おはよう

完成まであと少し！！



最後は、**付属語**です。

付属語は二種類しかなく、活用するか、しないかで分類されます。

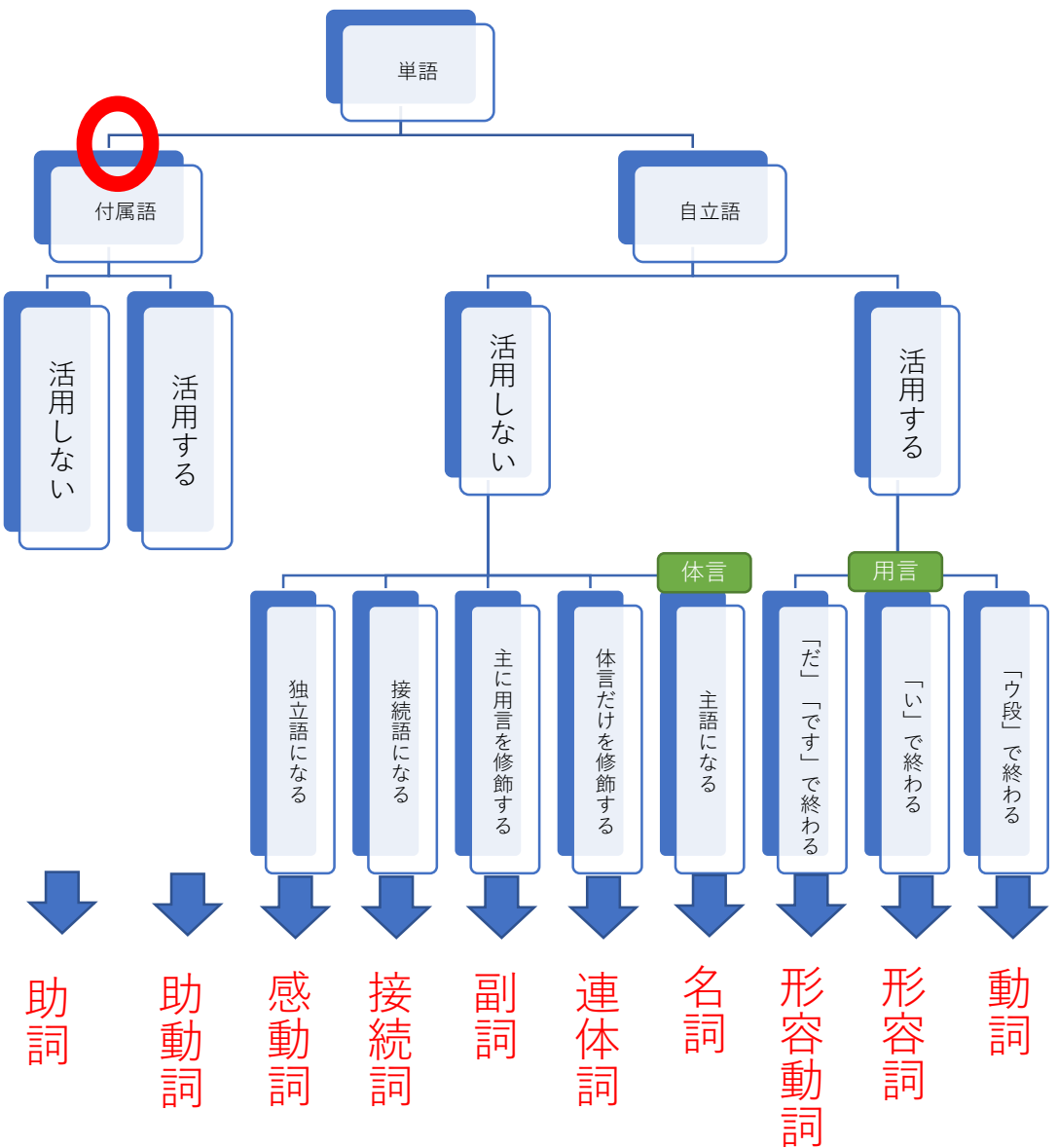
助動詞・・・活用する付属語。

(例) た ます そうだ せる

助詞・・・活用しない付属語。

(例) が の から をこそ さえ

※付属語の活用については、見分けるのが難しいものもあります。助詞・助動詞については三年生で詳しく学習します。



※この右の表のことを、**品詞分類表**といいます。

これからの文法学習には、この品詞分類表の仕組みを理解していないと厳しくなります。必ず覚えてください。

※今日の学習は、文法ノートP34〜37です。

一度やってありますが、改めて確認しておきましょう。

文法③ 一年生の復習

★単語の種類

品詞分類

品詞

品詞とは・文法上の働きなどにより単語を次の十種類に分類したもの。

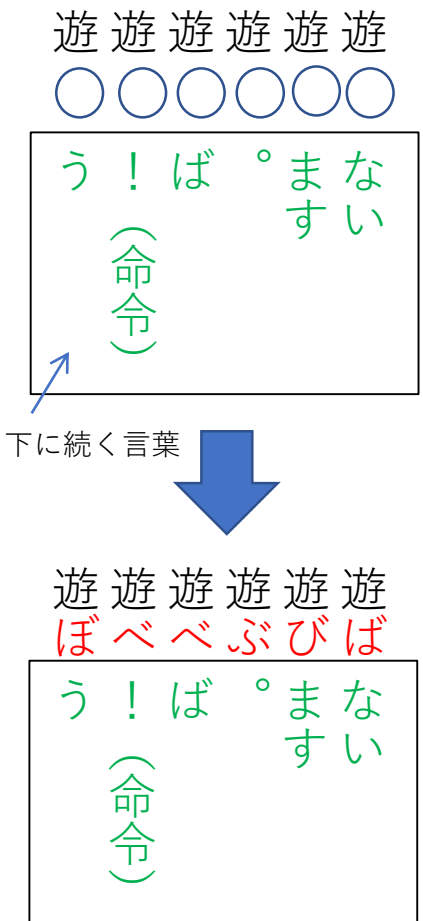
- (動詞) (形容詞) (形容動詞)
- (名詞) (連体詞) (副詞) (接続詞)
- (助動詞) (助動詞) (感動詞)

主に次の三つのポイントで分類される。

- ①、自立語か付属語か。
- ②、活用するか、しないか。
- ③、どのような文の成分になるか。

活用

活用とは・下に続く言葉によって、単語の形が変化することをいう。



※活用するか、しないかは下に「ない」や「ば」をつけて確認する。



活用する自立語

活用する自立語はそれだけで**述語**になることができ、**動詞・形容詞・形容動詞**の三つの品詞に分類される。この三つの品詞をまとめて、**用言**という。

「動詞・形容詞・形容動詞の分類」

動詞・・・言い切りの形が、「ウ段」の音で終わる。

(例) 走る 食べる 投げる 笑う 話す

形容詞・・・言い切りの形が、「い」で終わる。

(例) 寒い 暑い 白い 楽しい 重い

形容動詞・・・言い切りの形が、「だ」「です」で終わる。

(例) 静かだ(です) 元気だ きれいだ 立派だ

活用しない自立語

五つの品詞の中で、「が」をともなつて**主語**になることができる単語を**体言**という。体言は**名詞**のみ。

名詞・・・事柄や物事の名前を表わす。体言になる。

(例) りんご 雨 野球 竹取物語 学校 日本

連体詞・・・修飾語になる。体言だけを修飾する。

(例) 大きな この ある

副詞・・・修飾語になる。主に**用言**を修飾する。

(例) とても すぐに そつと ゆっくり

接続詞・・・接続語になる。

(例) しかし だから でも つまり また

感動詞・・・独立語になる。

(例) まあ はい いいえ もしもし おはよう

付属語

付属語は二種類しかなく、活用するか、しないかで分類される。

助動詞・・・活用する付属語。

(例) た ます そうだ せる

助詞・・・活用しない付属語。

(例) が の から をこそ さえ

文法ノートP36上段にある
品詞分類表をノートに書き写し
ましょう！